



清承道中金好草鞋七

出羽紀行

逍遙文庫  
文庫6  
1004  
7



文庫6  
1004  
7

金草鞋

出羽の國羽黒山大推現へ倉指鬼の神と推古天皇元年の出現の湯殿月山と小奇峰靈窟の光景入目を驚  
應驗もすあたらると遠近の民俗信念恭敬毎夏  
群集齋戒と登山と山中小地獄とせりまをの多し  
はく硫黄ある山ゆと火りえ煙りたも温泉湧出さ  
その音をるるいりたのをも泣ごとく叫ぶがあまきあひ  
剛筆の聲をるるいりたのありあま地獄といふ性井小角  
泰澄行基等の知識山徑穴蹊分叢林小琴山神

出羽

はるひ神社佛閣の靈場と云ふものの諸國小牧奉せし當山  
其のたぐひ申之山内の分野概し諸人漫小まを成く  
こと成りては故小垢離場梵字川誓の池あり淨土口あり  
阿ふたをく白衣とたり杖草鞋まきあふてあて登山と満山  
堂塔の莊嚴實小人我を醒との靈跡あり永仁年間北条  
相列貞時鎌倉執權の時羽黒山の修験者訴試をさす  
執事の意し糾明をやとて事を辱たせりて北条元代  
記の版本小頭然たれば申人より當山の尊重あること著明  
今や書肆錦森堂のありし此編を志しり小冊にす  
山小詣さすべからるべとらんども同國酒田風間彦惣と

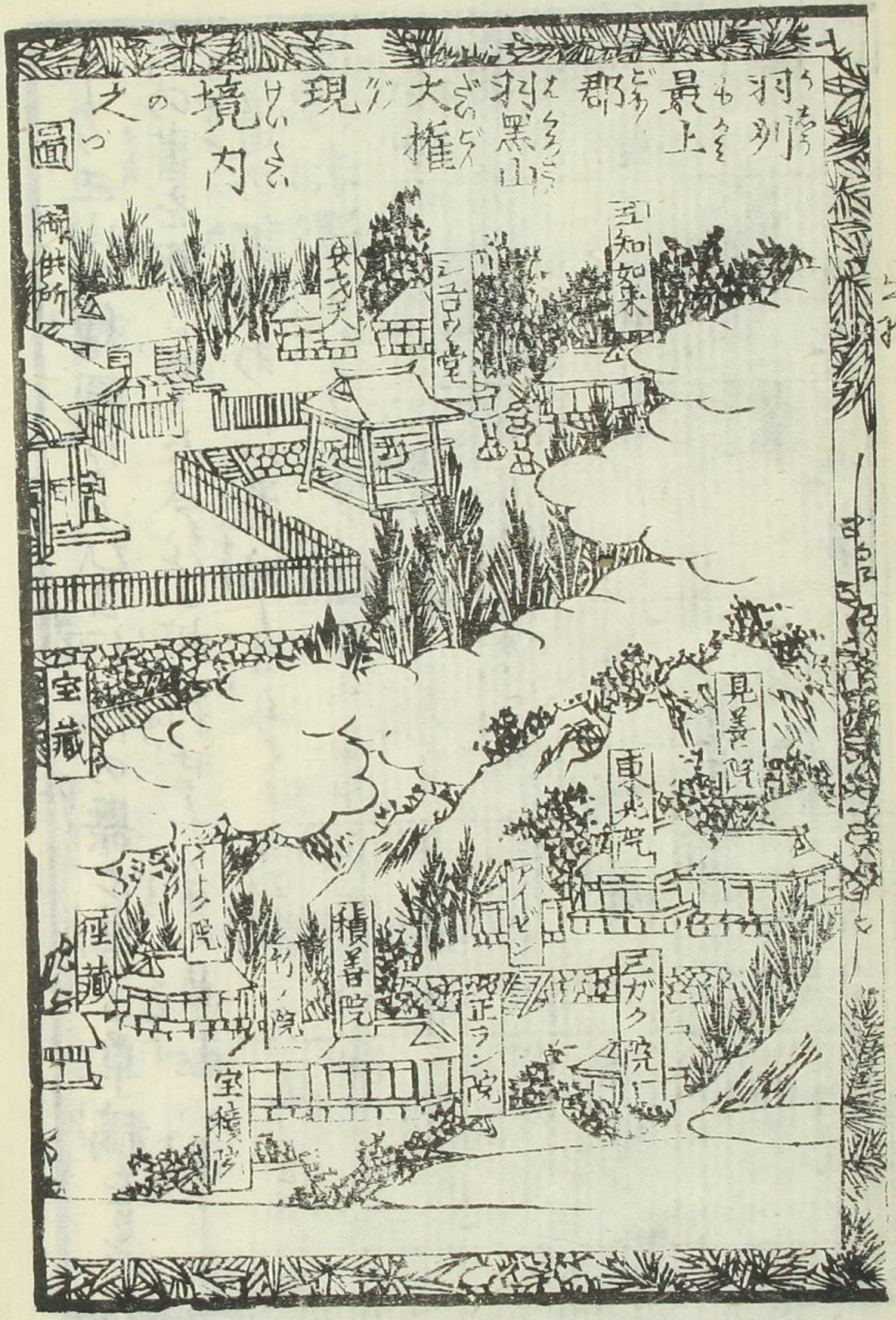
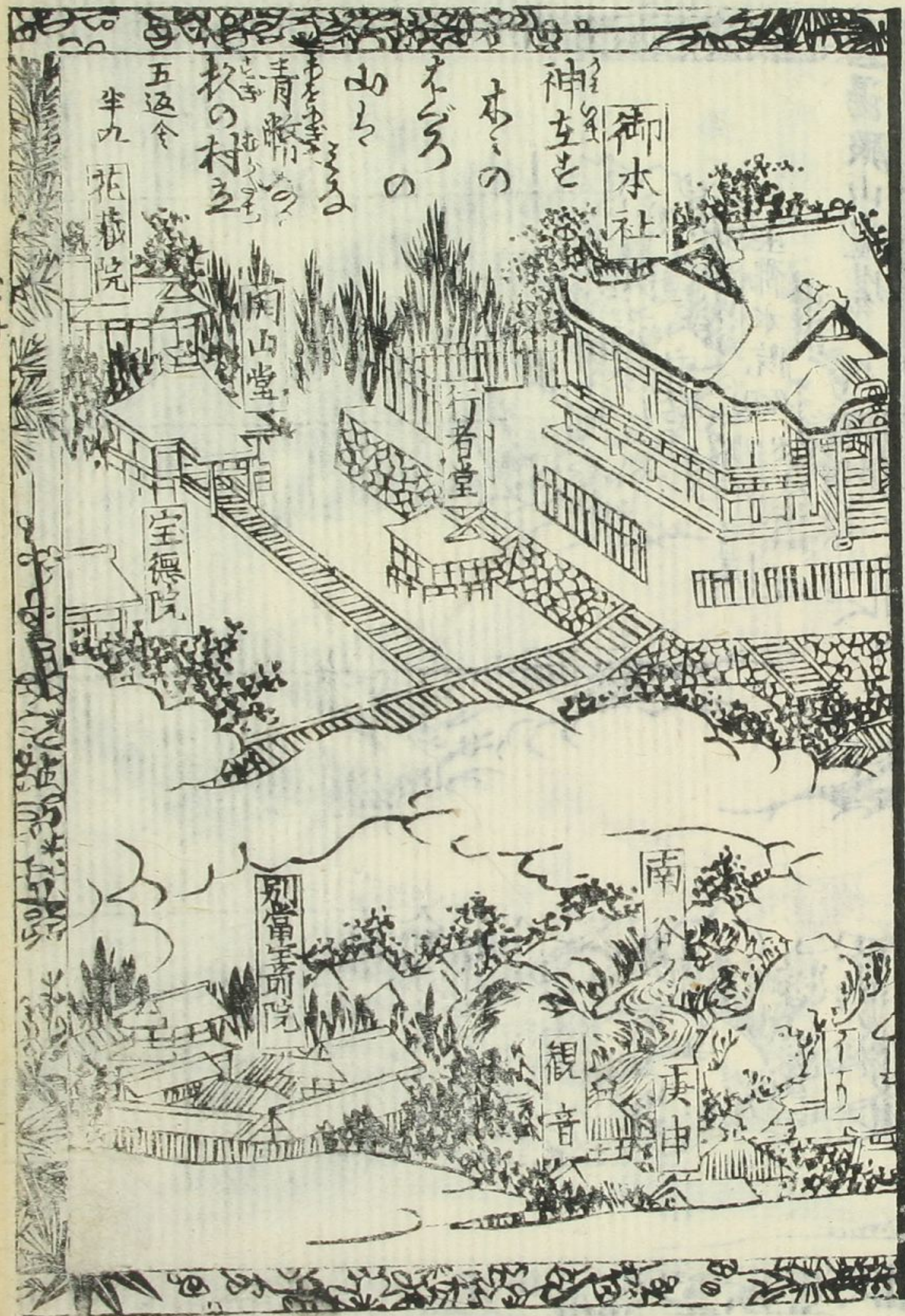
入より三山の繪圖かろび行程の驟を書る草稿を  
あの書を綴る抄とさる梓行せし金の草鞋小奥し  
街道の記行あれば省略とふく一々の驛よりとらる  
出羽米澤よりてゆく道を志るを各例の滑稽の詞を  
とらるるを視るに倦ざしめんが爲り其餘驛々里數の相  
違前後順逆の謬もあるを承知されし見ゆべしと  
爾云

寅 柳春

十返舎一九誌

方言 金草鞋  
十返舎一九著

此編をわらわすは編者自傷あるを  
方言のあつてはかきとるに最上なる  
格現せんけいあの一公はとらるる  
四世を承りてくるとる







庭き坂 今



佐の木の野





教 平 八丁





大系 澤



板 谷



米よ 澤き



これ  
米よ  
澤き  
年の  
の

THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL  
THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL

THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL  
THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL

THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL  
THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL

出

出



THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL  
THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL

THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL  
THE  
MOUNTAIN  
SUN  
ON  
THE  
HILL

出

出

三ノ茂也 筑



十一

リ目 粘



十一

此の田中帯下帯の三里の帯を  
 白の帯と云ふ所の帯の帯の帯の  
 帯の帯の帯の帯の帯の帯の帯の

道のあつたま  
 粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

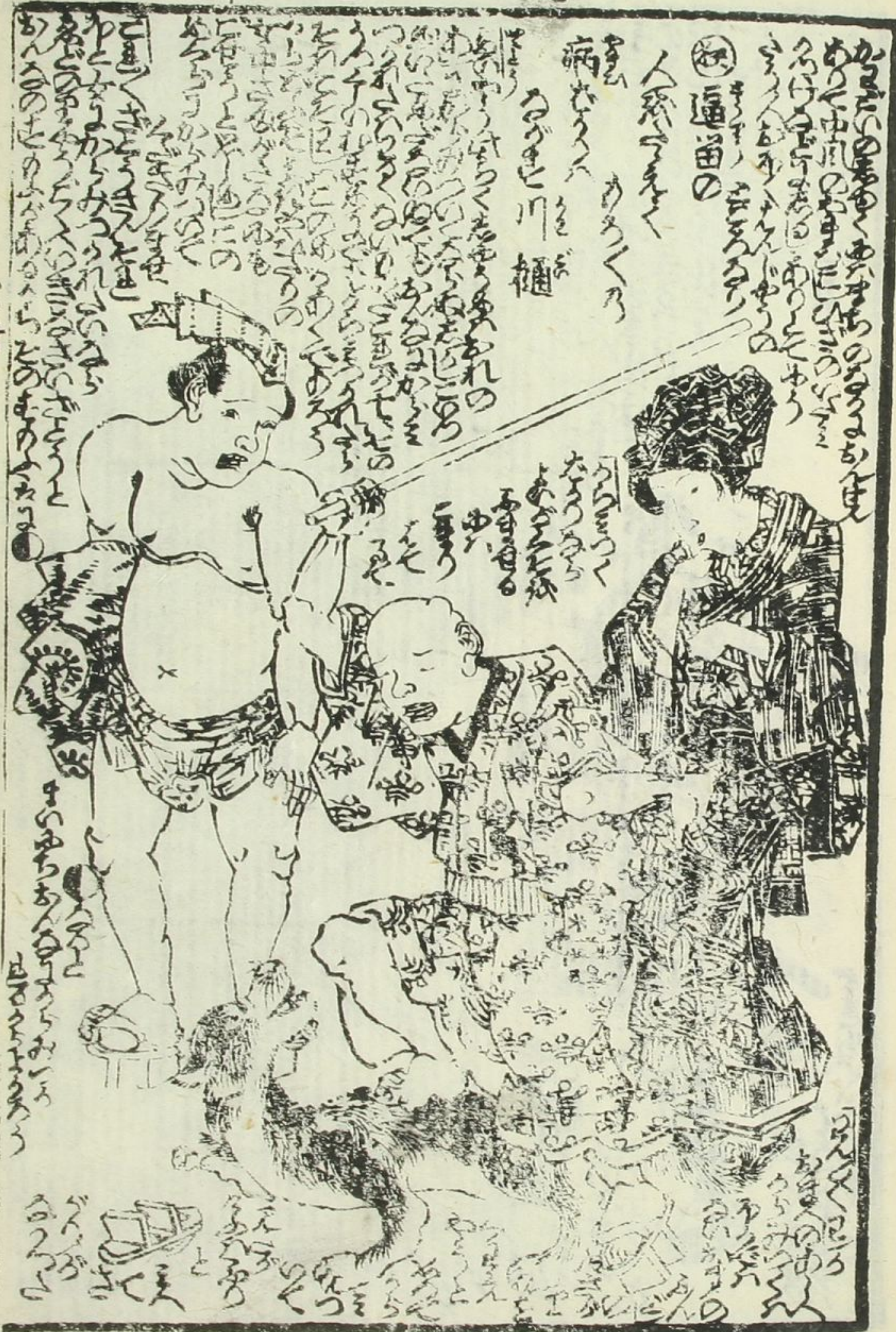
粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

粘りの  
 粘りの

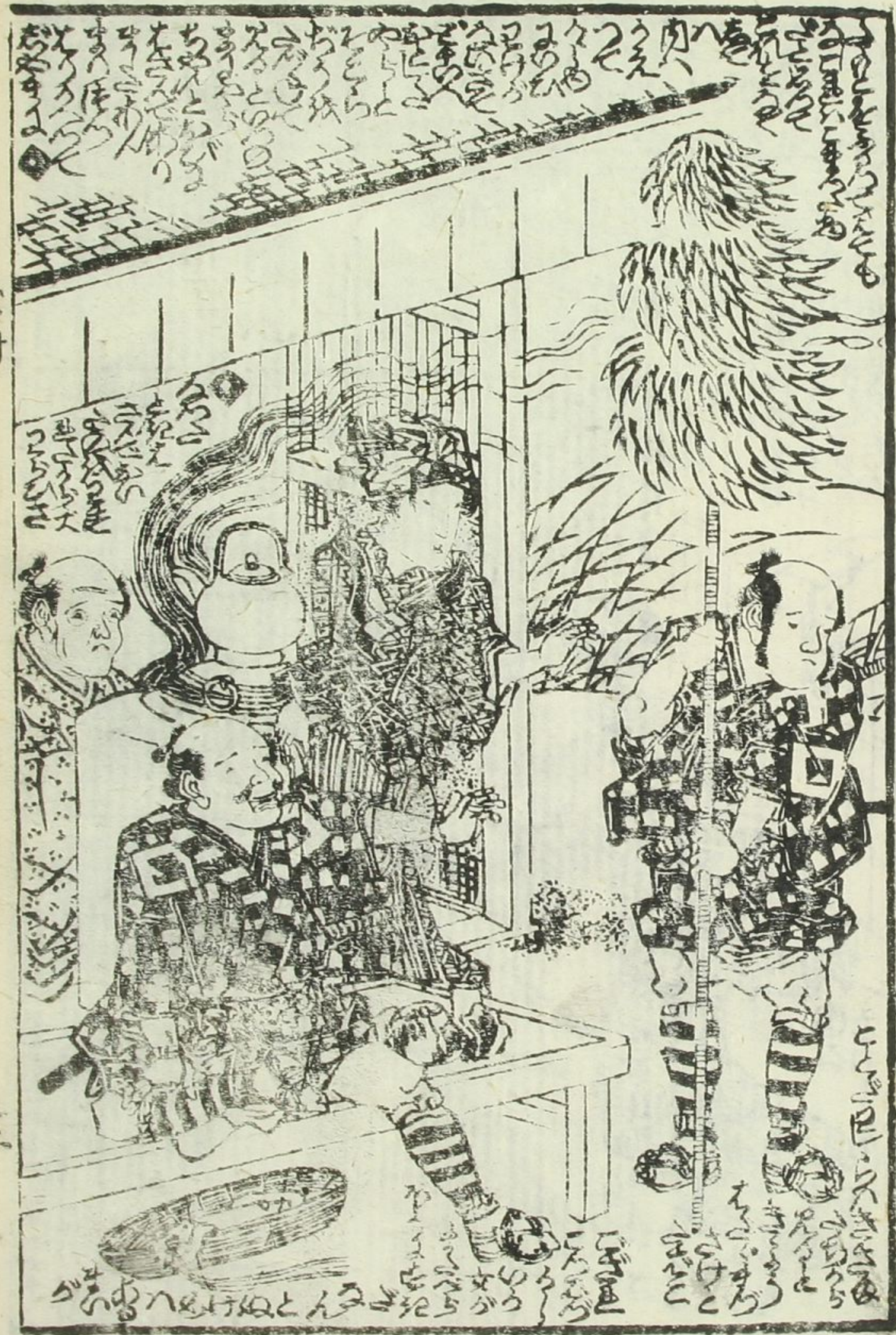
川 欄



赤湯 湯



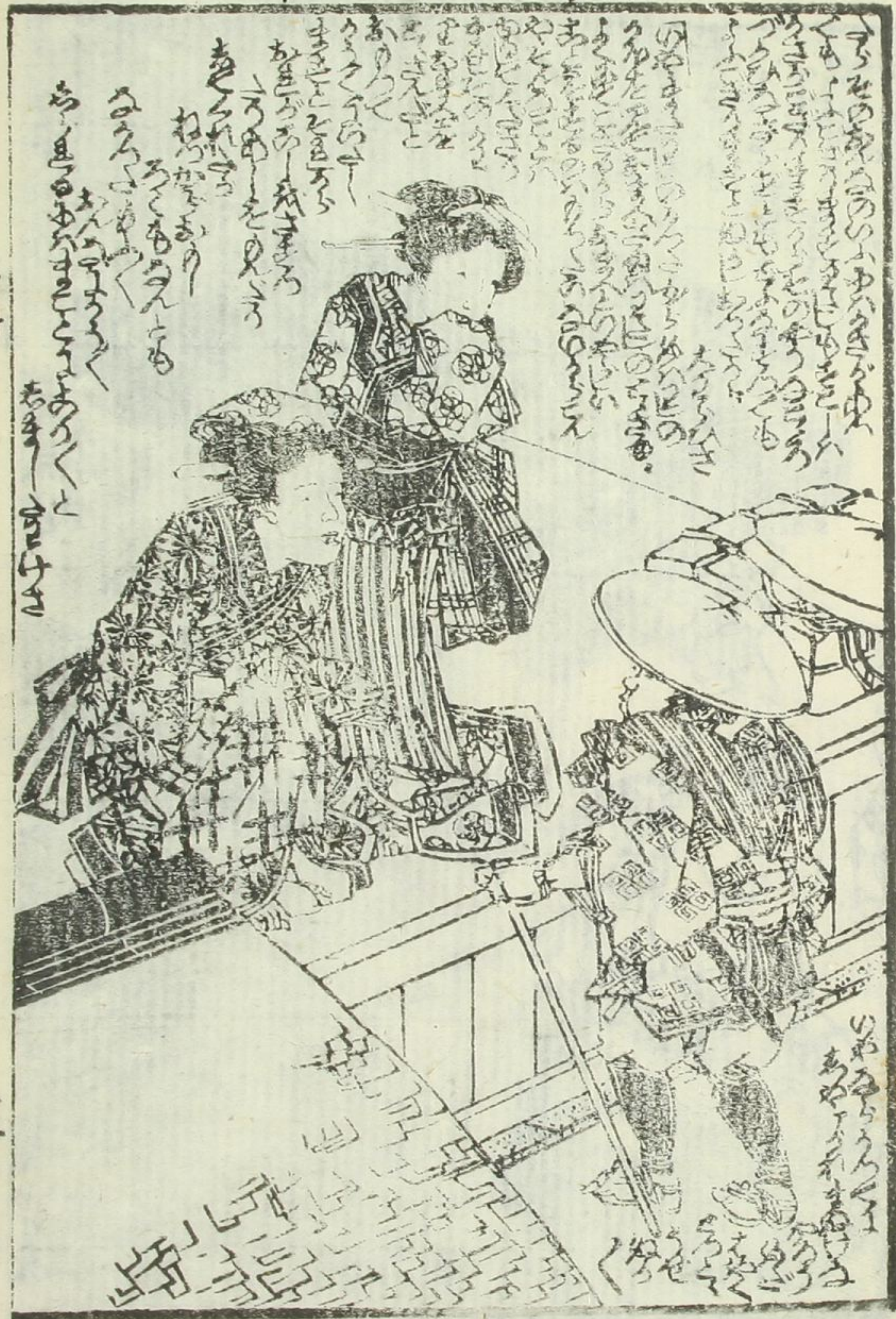
小岩澤



# 中山



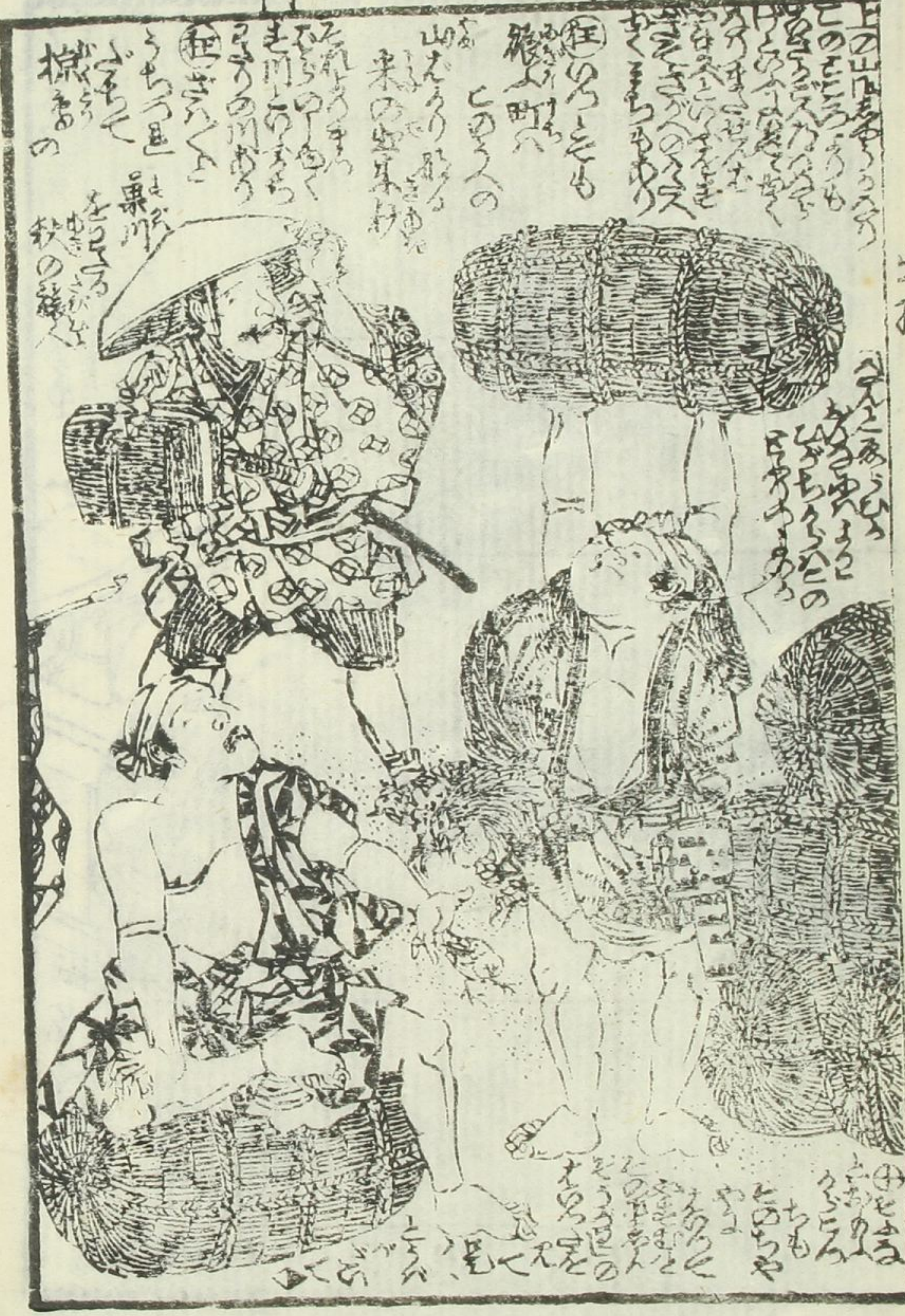
# 河口



三原 松



上 山 幸



山形 形



本堂建立





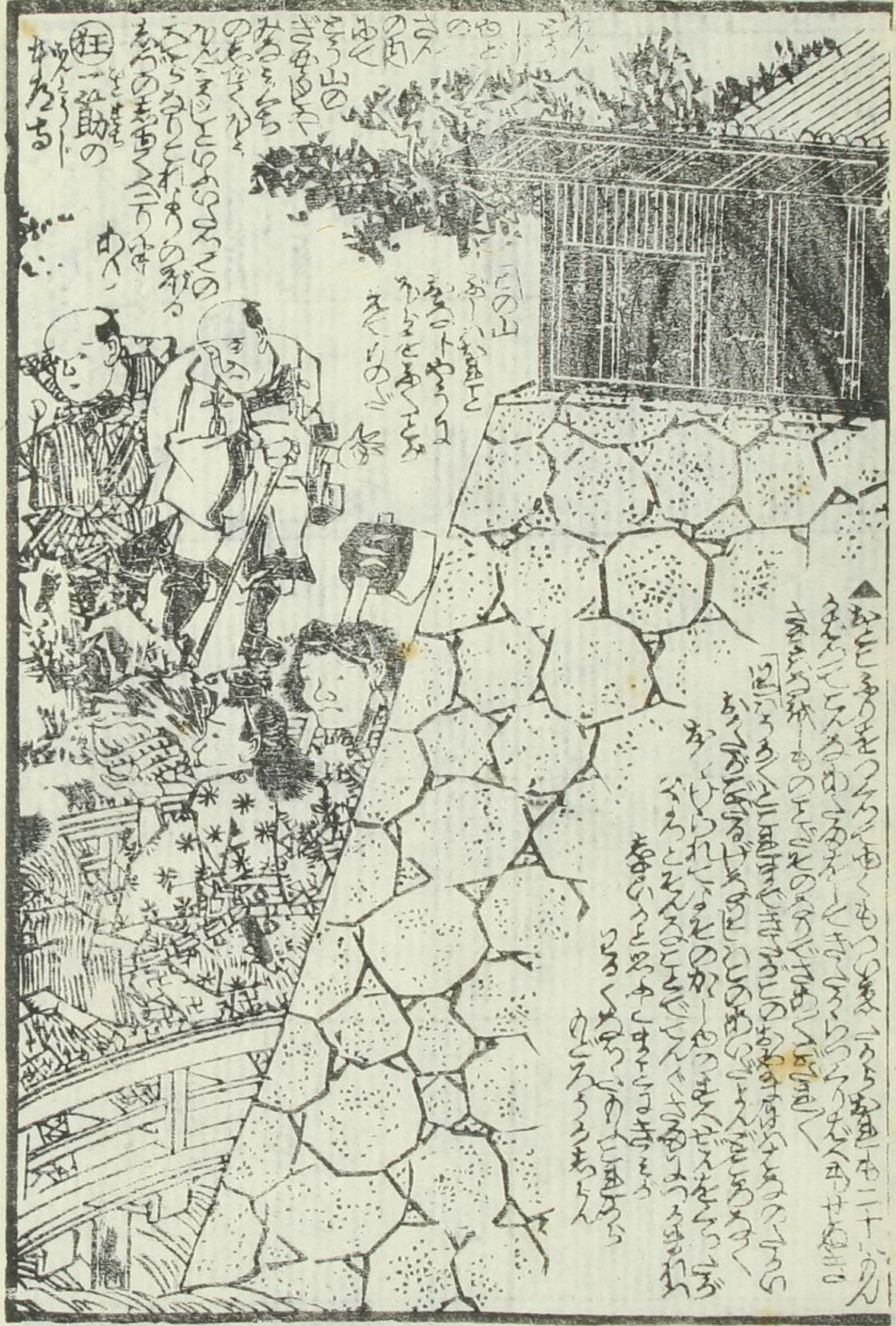




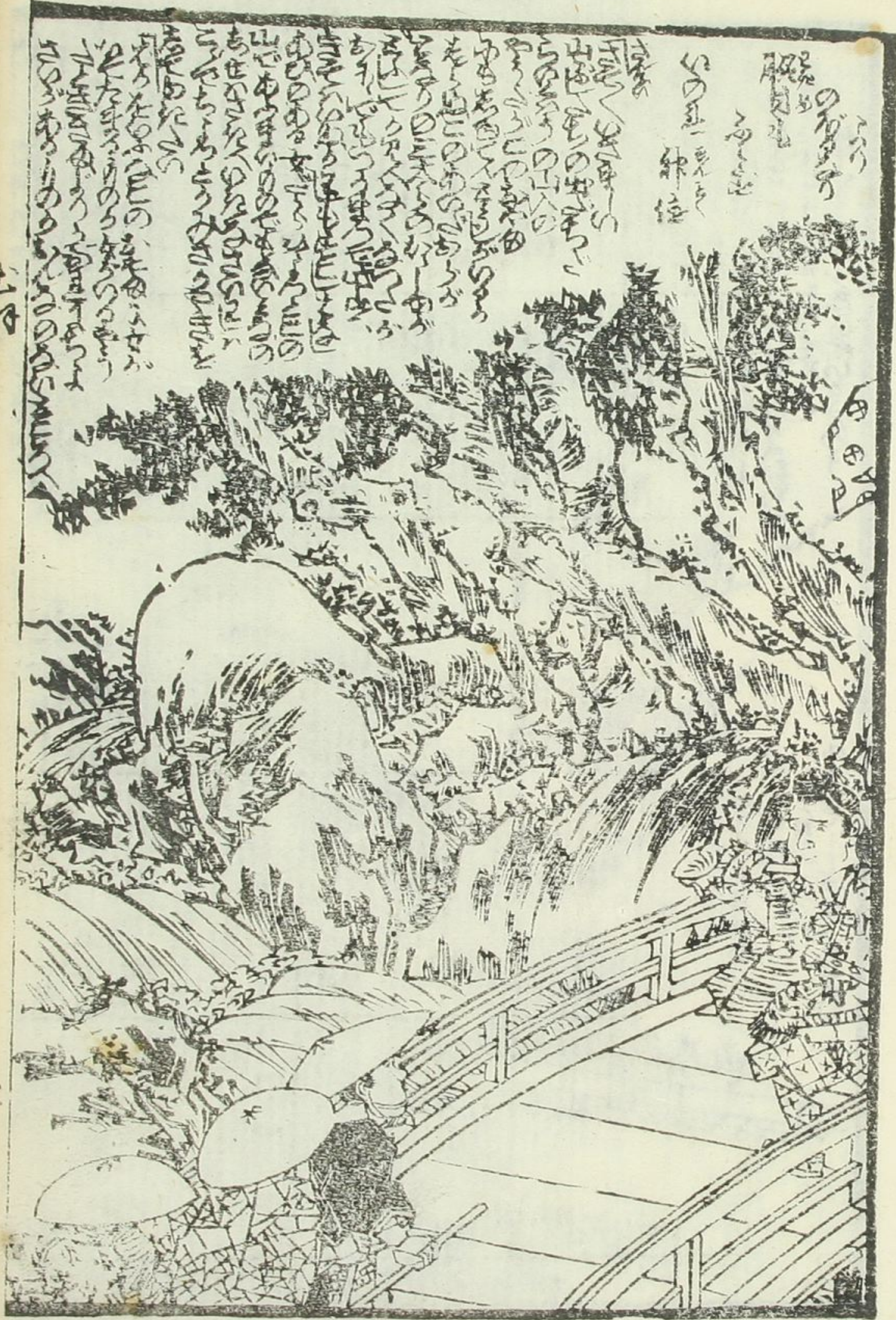




木道寺



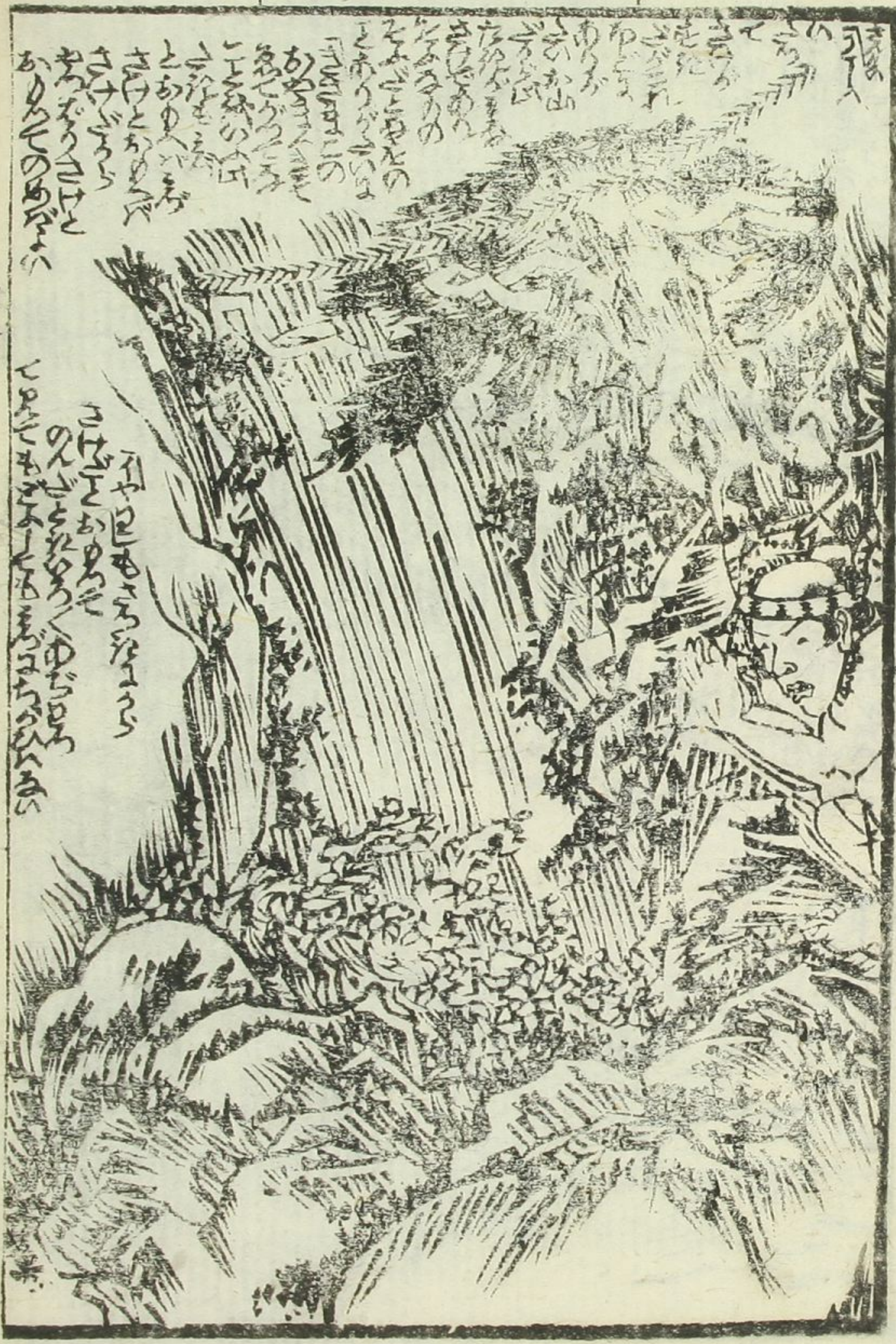
Handwritten Japanese text annotations surrounding the illustration, including labels like '木道寺' and '石段'.



Handwritten Japanese text annotations surrounding the illustration, including labels like '木道寺' and '石段'.



原と陀と跡と



山は高き山  
 谷は深き谷  
 水は清き水  
 石は重き石  
 草は茂き草  
 木は繁き木  
 鳥は鳴き鳥  
 虫は動き虫  
 人は歩き人  
 馬は走り馬  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車

舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車

梵と字と川と



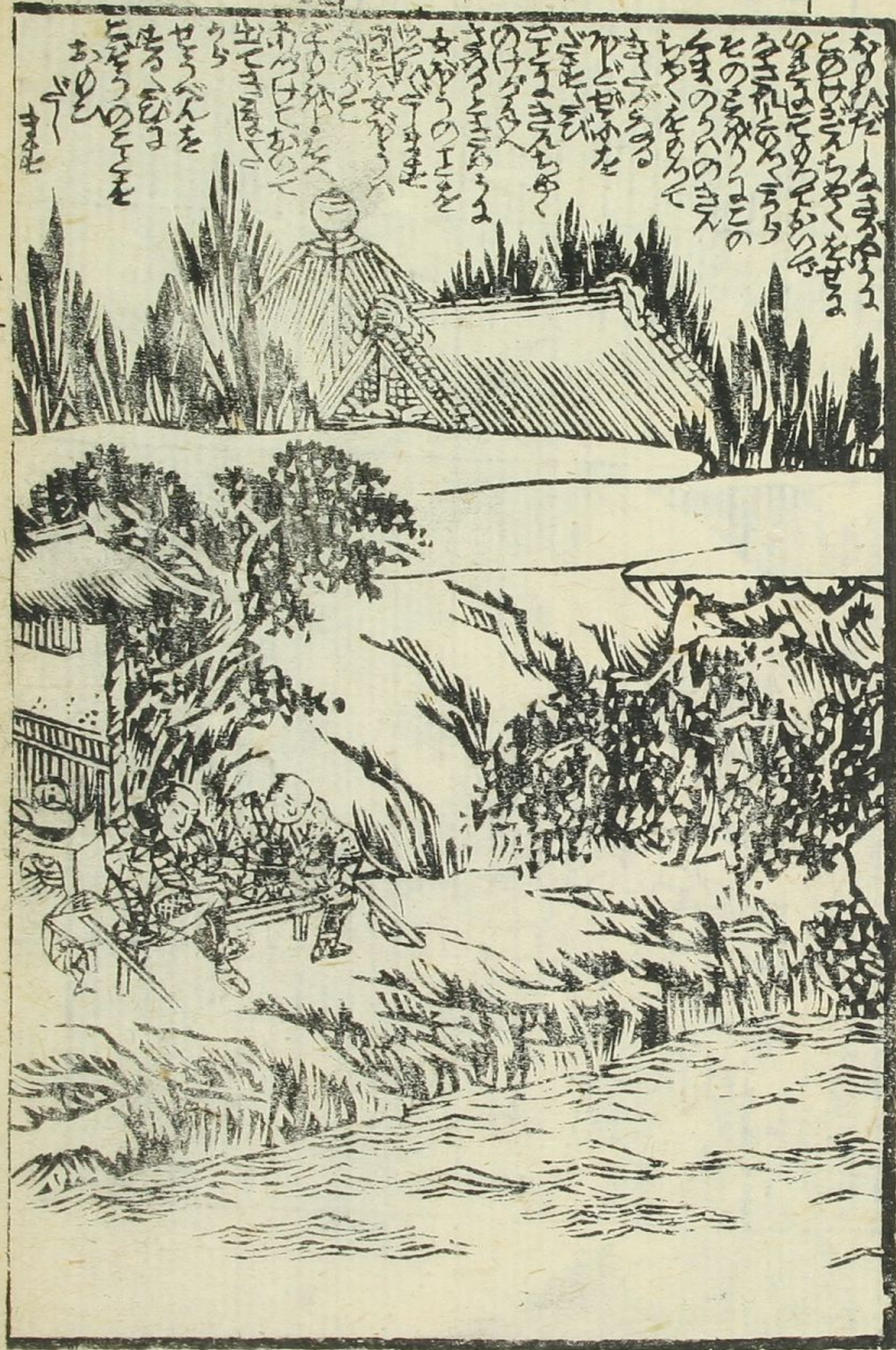
舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車

舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車  
 舟は漕ぎ舟  
 車は走り車

舟

舟

山 麓 山 月



山の麓に月夜を  
 眺むる人ありて  
 水の流れを聞き  
 心ゆくもたれど  
 月影の光を  
 照らするを  
 見れば  
 山は静かに  
 眠るなり

澤 濁



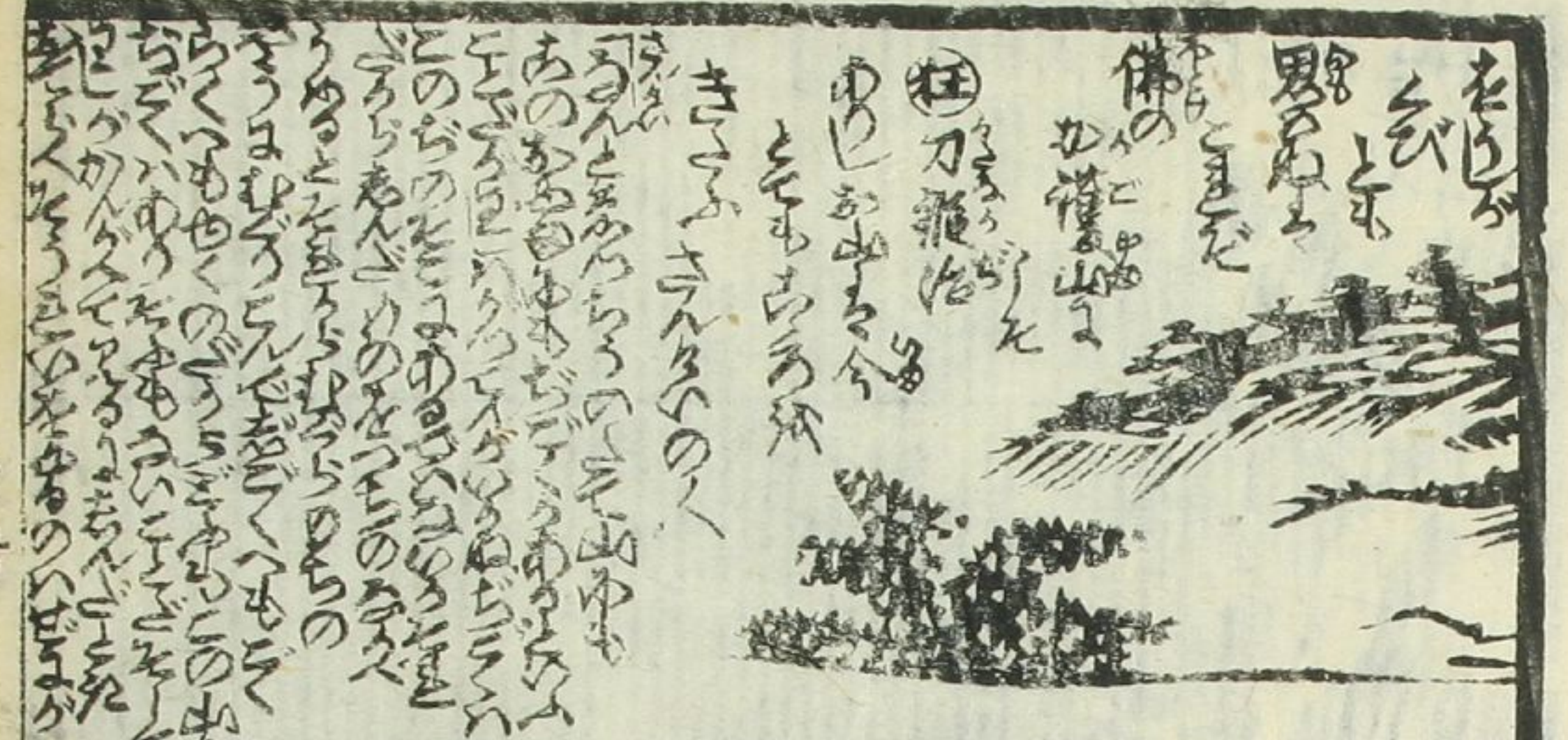
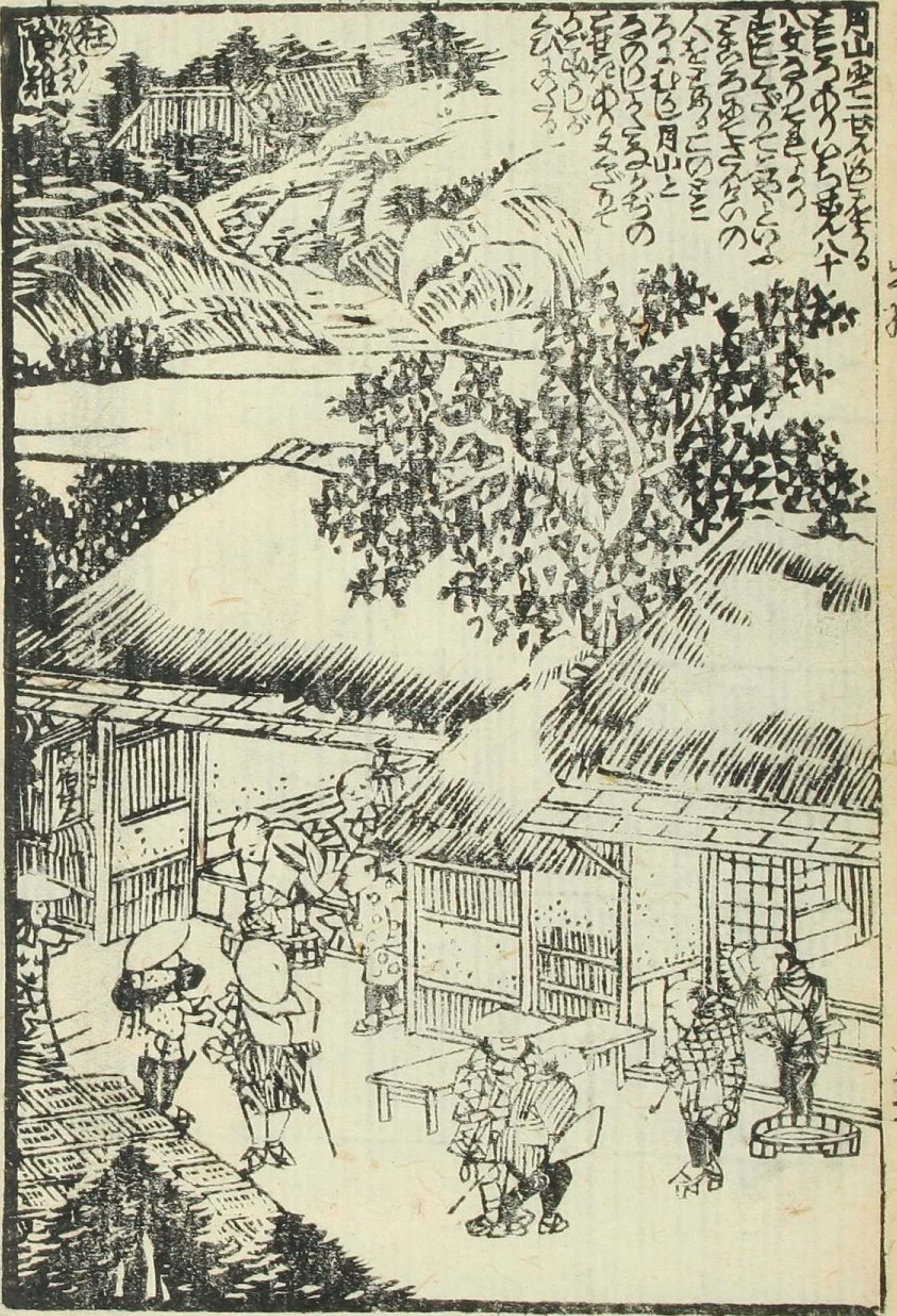
濁るる水は  
 濁るる心  
 濁るる世  
 濁るる人  
 濁るる物  
 濁るる事  
 濁るる言  
 濁るる行  
 濁るる徳

濁るる水は  
 濁るる心  
 濁るる世  
 濁るる人  
 濁るる物  
 濁るる事  
 濁るる言  
 濁るる行  
 濁るる徳



牛首 浄土の口

月山... 浄土... 浄土の口...



浄土の口... 浄土の口... 浄土の口...

浄土の口... 浄土の口... 浄土の口...

浄土の口... 浄土の口... 浄土の口...





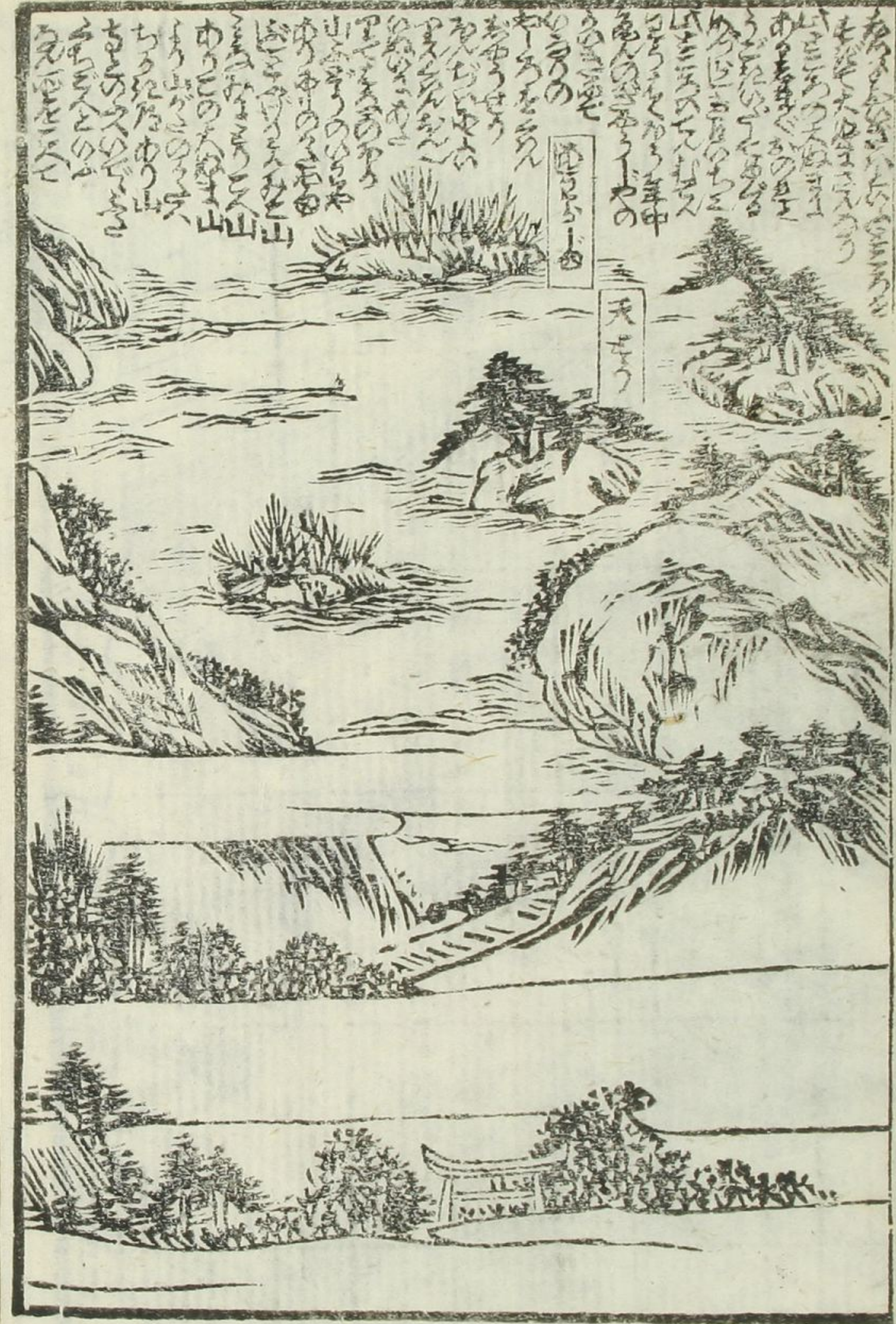
砂子 子 三



志 津 二



大窪山

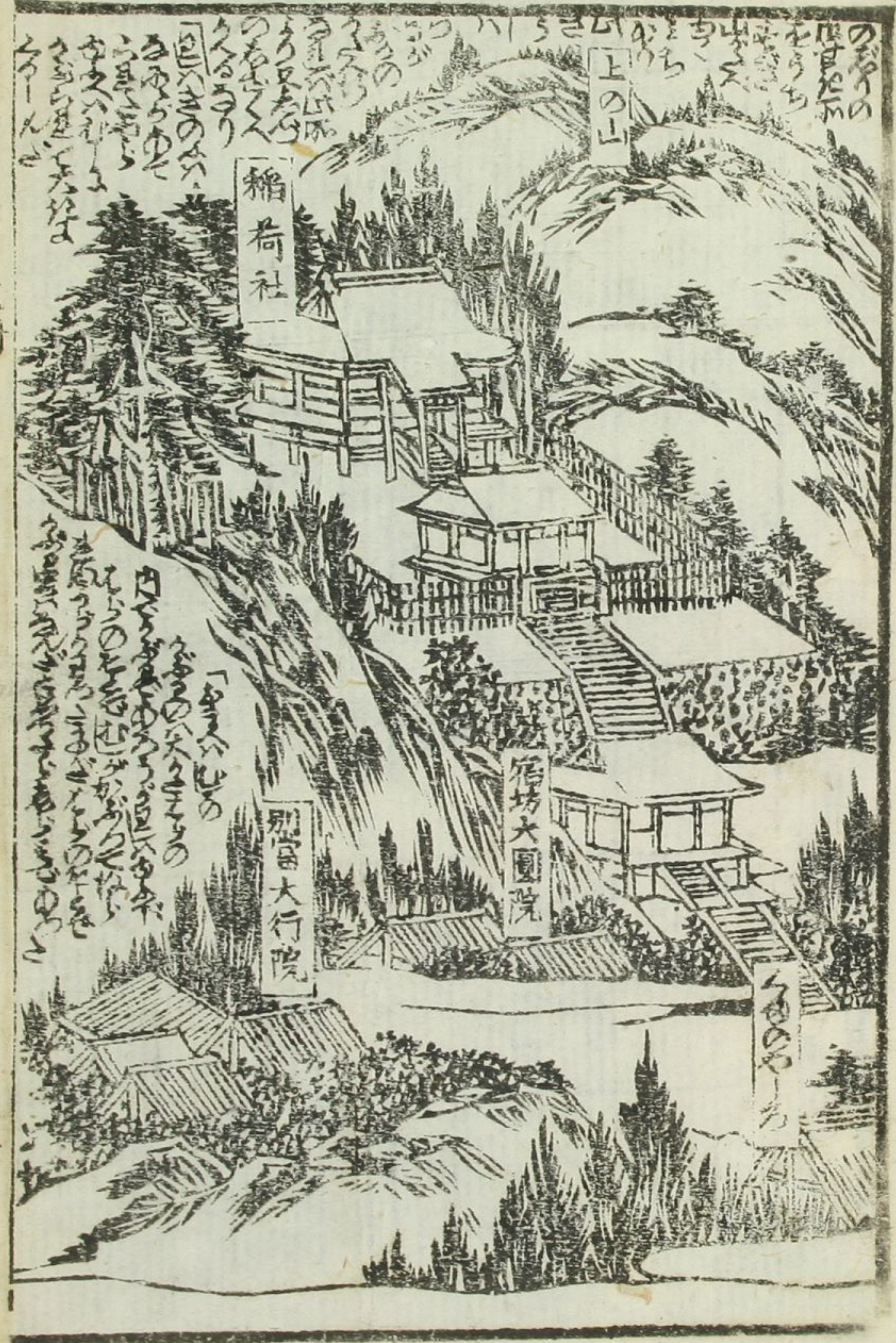


大窪山は、大窪川の源流にあり、  
 山頂には大窪寺あり。山麓には  
 大窪神社あり。山は、大窪川  
 の源流にあり、山頂には大窪寺  
 あり。山麓には大窪神社あり。

天さう

山子

九七



上の山  
 大窪山は、大窪川の源流にあり、  
 山頂には大窪寺あり。山麓には  
 大窪神社あり。山は、大窪川  
 の源流にあり、山頂には大窪寺  
 あり。山麓には大窪神社あり。

稲荷社

大窪大園院

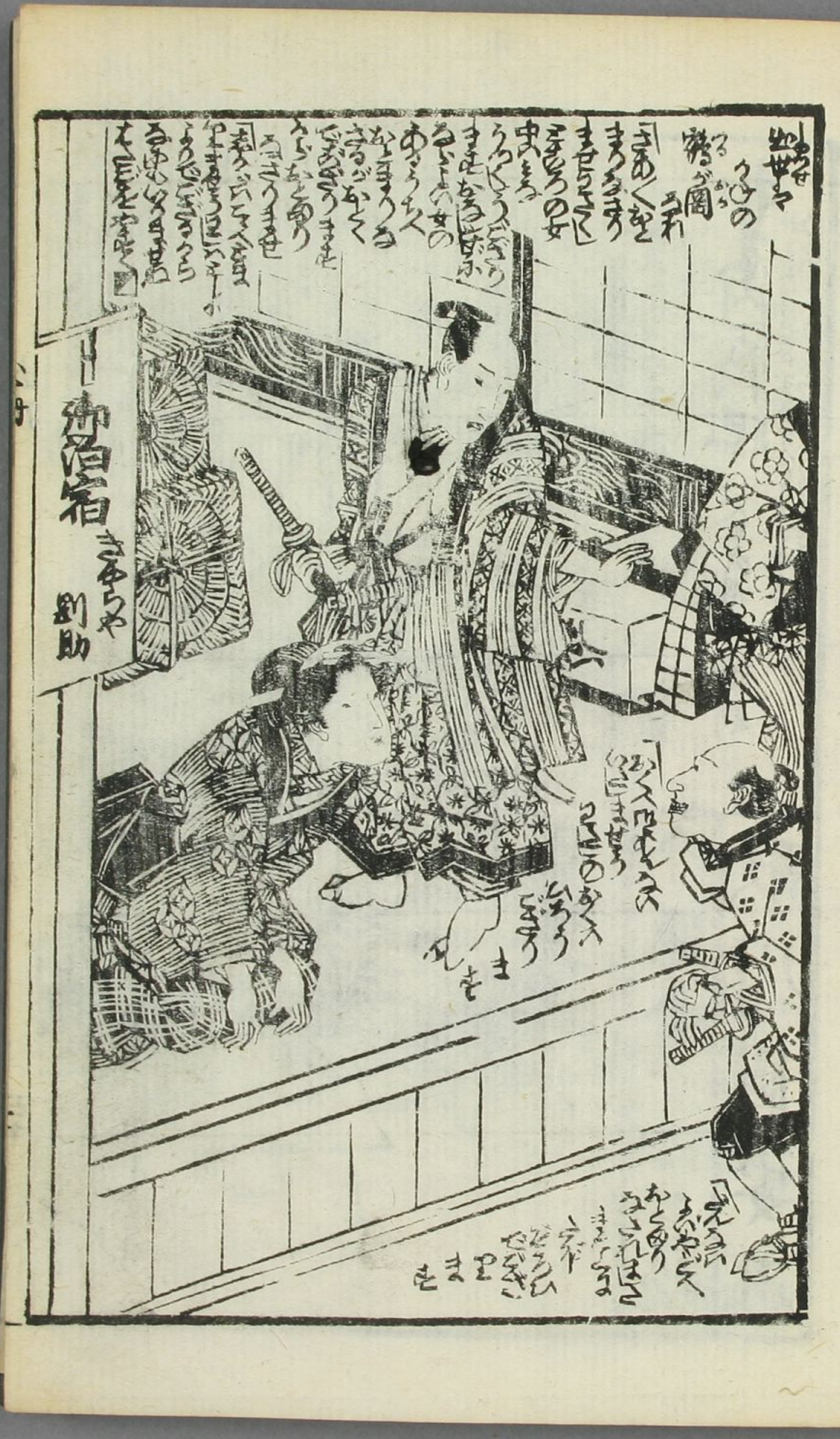
別當大行院

大窪山は、大窪川の源流にあり、  
 山頂には大窪寺あり。山麓には  
 大窪神社あり。山は、大窪川  
 の源流にあり、山頂には大窪寺  
 あり。山麓には大窪神社あり。

山子

九七





此の書は、  
 徳川幕府の  
 御用書生  
 大田南畝  
 氏の著す  
 所なり。其  
 の書は、  
 徳川の御  
 用書生の  
 御用書生  
 大田南畝  
 氏の著す  
 所なり。

御用書生

義経仙女香

雨天

大田南畝  
 氏の著す  
 所なり。



和漢内戦記

全六冊

近刻

此の書は、  
 徳川幕府の  
 御用書生  
 大田南畝  
 氏の著す  
 所なり。

十返舎一九著作

歌川國安画



早稲田大学図書館

011688991864